

16 工事

【関連章第6章2】

事例 「建築工事中建物の屋上から出火した火災」

出火時分 7月 9時ごろ

用途等 建築工事中建物屋上 耐火造 9/2

被害状況 アスファルト溶解窯 1台、アスファルト 25kg 等焼損 負傷者 1人

概要

この火災は、工事中建物の屋上で工事作業中に出火したものです。

出火原因は、屋上でアスファルト溶解窯（以下「溶解窯」という。）を用いてアスファルトを溶解していたところ、アスファルトが過熱され出火したものです。

アスファルトの溶解作業は煙や臭気を伴う作業のため、近隣建物に煙等が流れないように溶解窯の周囲には防災シートを用いた囲い及び送風機を設定していました。作業員は作業中、煙等が漏れていないか、周囲の様子を確認していたところ、溶解窯の排気側に置かれた送風機が燃えていることに気付き、溶解窯から炎が上がっているのを発見しました。発見した作業員は、溶解窯のバーナを消すとともに、囲い内から溶解窯を移動し、周囲に置いてあった粉末消火器2本を用いて初期消火しました。初期消火の際に作業員が煙を吸い込み受傷しています。通報は、近隣建物の関係者が屋上から煙が出ているのを発見し、119番通報しています。

教訓等

工事現場では、工事で使用する多量の可燃物や塗料等の危険物が所狭しと置かれています。

火気を使用する際は、付近の状況や現場に潜む危険性を十分認識した上で作業を行うことが重要です。また、工事の準備や作業を行う前に、作業員全員が現場の配置状況、各々の作業内容、火気の使用状況並びに危険物の有無などを認識して作業に取り組めるよう、情報共有を徹底し出火防止につなげましょう。



写真 16-1 出火箇所の状況



写真 16-2 焼損箇所の状況